

はじめに

近年、気候変動の影響等もあり熱中症による救急搬送人員数や死亡者数が増加しており、社会全体で大きな課題になっています。特に、2018年は「災害級の暑さ」とも呼ばれる気候になったため日本全体における熱中症による救急搬送人員数が95,137人と過去最多、死亡者数も1,581人と過去2番目の多さとなりました。

熱中症は、正しい知識を身につけることでその発生や重症化を防ぐことができる病気です。ひとりひとりが自分で気をつけるだけでなく、地域・社会が一体となって対策に取り組むことが重要です。特に、本年に開催予定である、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を始めとした、多くの人が集まる夏季のイベント等における熱中症対策の重要性が非常に高まっています。

政府では、関係省庁が連携して様々な分野で対策を行っており、環境省は其中で広く一般の方を対象とした普及啓発活動に取り組んでいます。

環境省の取り組みの一環として作成した本ガイドラインでは、イベントを主催する立場にある方や施設を管理する方に向けて、夏季のイベントで熱中症患者が発生しやすい条件、参考事例、イベントを安全に実施するための対策等についてまとめています。

暑い環境において開催される以上、夏季のイベント等における熱中症発生リスクは常に存在しますが、環境や運営を改善することで、少しでも被害を小さく出来るよう、本ガイドラインが広く活用されることを願っています。

本ガイドラインの策定にあたりご協力をいただいた検討委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

環境省環境保健部環境安全課